

# CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)お茶と宇治のまち歴史公園整	階数	地上2F
建設地	京都府宇治市	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	80人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年11月 予定	評価の実施日	2019年9月17日
敷地面積	7,081 m <sup>2</sup>	作成者	石井衣利子
建築面積	1,556 m <sup>2</sup>	確認日	2019年9月25日
延床面積	2,290 m <sup>2</sup>	確認者	外山博文



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.4** ★★★★★☆

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.5**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.8

**LR のスコア = 3.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 連続する切妻屋根の外観デザインは宇治の山々と呼応し、まち並みに調和することを目指した。 また、敷地内を積極的に緑化し、隣接する宇治川や茶畑と一体的にみどりあふれる風景を作り出すことを計画した。		<b>その他</b> 0
<b>Q1 室内環境</b> 開放的な共用部によりゆとりのある空間を作り出している。 共用部に沿って各室を配置し、にぎわいの見える化により地域のにぎわい拠点としての施設を計画している。	<b>Q2 サービス性能</b> PSや盤置場は共用部に配置し、メンテナンスしやすい計画としている。集客ゾーンとバックヤード関係のゾーニングを明確に分離することで管理しやすい施設計画としている。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 積極的に緑化し、周囲との緑の景観との調和、また内部から外を見たときの植栽の豊かさを演出している。また、照明計画を外構計画に合わせてデザインすることで夜間の景観の美しさにも配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b> low-e複層ガラスやALC外壁の内側にさらに断熱材t=25を吹き付けるなど高気密・高断熱の建物計画としている。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> F★★★★の建築材料使用の徹底、エコケブルの採用、	<b>LR3 敷地外環境</b> ゴミ置き場の設置、自転車置き場、十分な駐車スペースを確保。 搬出入動線を一般車両動線と明確に分離し、安全性、利便性に配慮。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される